



博物館だより

平成21年度(2009年度)春季特別展・1町5村のアーカイブ展

吹田 いま・むかし

第1期 吹田町・岸部村物語

平成21年(2009) 4月25日(土)～6月2日(火)

第2期 山田村・千里村・豊津村・新田村物語

平成21年(2009) 6月6日(土)～7月14日(火)

第3期 吹田市の自然物語

平成21年(2009) 7月18日(土)～8月30日(日)



吉田初三郎画 吹田鳥瞰図(当館蔵)

鳥瞰図^{ちようかんず}は“まち”の姿を上空から鳥の目で見たとように描いたパノラマ地図です。吉田初三郎(1884-1955)はその大家で、大正から昭和にかけて、観光案内図、ポスター、絵はがき、絵本挿図など1000点以上の作品を手がけました。

昭和16年(1941)、初三郎は前年に吹田町、岸部村、千里村、豊津村が合併して誕生した吹田市の鳥瞰図を描きました。南空から捉えた画面中央にはできて間もない吹田市役所、アサヒビール吹田工場や吹田操車場、南には市街地化が進んだ吹田町が広がり、神崎川沿いには晒し工場群^{さら}が見えます。一方、豊津村には水田景観が多く残され、千里村には宅地開発の波が押し寄せている様子がわかります。

その後、昭和28年(1953)に新田村の下新田、同30年(1955)に山田村が編入されて現在の吹田市区域になり、高度経済成長期を経てほぼ全域が開発されました。しかし、市域をつぶさに見れば、合併以前の1町5村各々の地域に生活文化、歴史、自然環境の特性を見出すことができます。

博物館ではこうした情報を現地で集積・発信し、学習の場となるような拠点として、かつての1町5村の地域それぞれにアーカイブ(郷土館)を設置する構想に取り組んでいます。(高橋真希)

郷土史の楽しみ

特別展「吹田 いま・むかし」は吹田市のルーツを探り、郷土愛を育んでいただくことを目指した試みです。そこでは歴史が大きな役割を果たします。今回の企画の中心として協力していただいた「吹田郷土史研究会」を代表して会長佐々木進さんにお話をうかがいました。

一吹田郷土史研究会とはどんな組織なのですか。

佐々木 昭和42年に故池田半兵衛さんの熱心な努力で立ち上がりました。現在、会員は290人、吹田だけでなく茨木、高槻、豊中、長岡京、東大阪まで、広い地域にわたっています。活動は年4回の歴史文化講座のほか、歴史探訪バスツアーと市内及び近郊の歴史散歩などが主なものです。その他、公民館や歴史同好会などからの依頼をうけて講演に出向いています。

一なかなか活発な活動ぶりですね。しかし、ご苦労もあるでしょう。

佐々木 私たちは、アカデミックと言うより、身近なところに目を付け、楽しみながらやることを主旨としています。ですから、もっと多くの人に気楽に参加していただきたい。悩みは若手研究者が少ないこと。盛んにハッパをかけているのですがね。

一吹田が日本史に登場するのはいつからですか。

佐々木 『日本書紀』に、神功皇后に反旗をあ

げた忍熊王が近江の天津で水死したと書かれています。岸部には、そのとき従っていた五十狭茅宿禰が王の首を岸部の天津神社に埋めたという言い伝えがあります。また、その五十狭茅宿禰が吉志の祖とされています。

一神功皇后は邪馬台国の卑弥呼に擬す人もあり、史実か伝説かの意見はわかれるでしょうが、当時からすでに政治の中枢に吹田の人が組み込まれていたことが分かる記事ですね。

佐々木 『続日本紀』に、桓武天皇の時、三国川（神崎川）と淀川を結ぶ水路を掘ったとありますが、これによって長岡京と西国との水運の便が飛躍的に良くなりました。

一吹田が水運による物流の拠点として重要だったことを示す記事ですね。吉志氏は外交を本業としていたため水運にもたけていましたから、うまくつながりますね。

佐々木 『増鏡』には西園寺実氏が吹田殿で鶴飼を見て楽しんだとあります。「大の木さん」

（泉殿宮の御旅所）の境内には「吹田殿址」の石碑が見られます。

一中世に荘園が広がったとき、都の貴族がリゾート地として利用してま
すね。閑静な白砂青松の景観が目
にうかぶようです。

佐々木 その後、世は騒然として、榎坂、吹田、三宅氏など地方豪族の台頭と抗争があります。吹田城の記載もありますが、遺跡はまだ特定されていないようです。

一江戸時代後半になると、社寺や石造物をはじめとする資料がたくさん



右／佐々木進さん



大の木さん（内本町3丁目）

でて、歴史の細部が明らかになりますね。

佐々木 幕末・明治初期になると、旧家に^{じかた}地方文書が大量に残されています。未発見のものもあるはずですよ。研究が進めば、きっと興味深い成果が上がるでしょう。しかし、この大仕事は、若手の奮起に期待したいとおもっています。

ー現代史は郷土史研究の重要なトピックスですね。

佐々木 千里ニュータウンは大阪府下最初のニュータウンとして有名ですが、その先行モデルとなったのが千里山住宅です。当時の住宅不足に应运、イギリスのレッチワースをモデルに、中産階級を対象にはじめた。はじめは売れ行きが悪かったが、関東大震災を契機に思いがけず関東の人が移り住むことになった。City hallを「公民館」と訳して、当時としては珍しい社交の場となったり、公衆浴場が裸の付き合いの場となったりなど、おもしろいエピソードがたくさん残っています。

このように大正モダニズムの薫り高い、流行の先端だったまちも、

今や、年の流れに逆らえず、住宅や公共施設の建て替えなどが進んでいます。そうした中で「誰もが安心して快適に住めるまち、その歴史を生かし、古いものと新しいものがうまく共存した魅力あるまちにするためにはどうすればよいのか。」という思いからつくられた「千里山まちづくり協議会」がまちの継承・保全に取り組んでいます。

ーその心意気こそ、吹田アーカイブ展の目指すところです。

佐々木 私の守備範囲ばかり述べましたが、会員活動として、本会顧問の加賀眞砂子さんの街道研究は大変精緻なもので我が研究会の自慢の一つです。副会長の内山実嗣さんは子どものころに山田村で眼前に見た、昭和25年の吹田事件を熱心に追跡しています。江坂や春日（新田）地区でも再見ウオークなどに関連して、郷土史の掘りおこしがはじまっています。

ー町という広大な空間は博物館の中にはとても収まるものではありません。だから、これという場所に拠点を置き、ネットワーク化する。博物館の役割は、吹田文化のオリエンテーションセンターとなることだと私は考えています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

（聞き手 小山修三）



平成20年度吹田再見ウオーク（春日地区）



権六おどり

権六おどりはかつては三島地域でも広く踊られていたと伝えられています。現在山田地区だけに伝えられ、お盆に踊られています。権六おどりは村の大工権六が惚れていた村の娘が円照寺の和尚さんに惚れたという噂を聞き、寺の普請の手を休めてしまったため、娘が和尚に書いた恋文を権六に手渡したところ機嫌を直して円照寺は見事に完成したと伝えています。

山田伊射奈岐神社太鼓神輿

山田の太鼓神輿は山田伊射奈岐神社の秋の大祭に地区内を巡行します。化粧をした小学生の男子が太鼓を叩き、かき手の勇壮な衣装や宮入後に行われる神木を中心にしてかき手が力を競い合うキアタリが特徴です。



郷土芸能の 豪華競演 郷土芸能大会を 開催します 5月16日(土)

吹田市内には地域無形民俗文化財に指定されている4つの団体があり、それぞれ、地元を中心に活動をされています。

このたび、4月25日から博物館で開催される1町5村アーカイブ展『吹田 いま・むかし』の関連イベントとして5月16日(土)に郷土芸能大会と銘打ってこれらの民俗芸能や無形民俗文化財が博物館に一同に集まり、伝統に裏付けられた技と心を披露していただくことになりました。

ご出演いただける芸能は、平成10年9月30日に指定された山田伊射奈岐神社太鼓神輿(山田伊射奈岐神社太鼓神輿保存会)、泉殿宮神楽獅子(泉殿宮神楽獅子保存会)、権六おどり(山田地区権六おどり保存会)と、平成21年2月23日に指定を受けた江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事(江坂連合自治会)で、豪華競演が実現いたしました。

公演は午前、午後の2回行われますので是非この機会をお見逃しのないよう、お越しをお待ちしております。

(藤井裕之)

江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿

太鼓御輿は江坂素盞鳴尊神社の秋大祭に地区内を巡行します。太鼓には小学生の男子がのり、かき手の男性は甚平を着て、腰巻きといった市内では珍しい衣装を身につけます。夕方には伊勢音頭を唄いながら宮入りし、太鼓を叩いて境内の神木のまわりをまわります。



泉殿宮神楽獅子

神楽獅子は泉殿宮の春祭りに宮と御旅所で芸能を演じます。「神前」といい、2人1組となって1人が相手の肩の上に立って、2階になり、剣、鈴と御幣を持ち、四方をお祓いしたり、獅子が乱れ舞い、踊り子が背後で傘をまわします。



平成21年度(2009年度)春季特別展・1町5村のアーカイブ展

『吹田 いま・むかし』イベント

オープニングイベント

4月25日(土) 13時～ 四ツ竹踊り (吹田市四ツ竹保存会)
13時30分～ 開会式
14時30分～15時30分 対談「1町5村のアーカイブ構想」
吹田市長 阪口善雄・当館館長 小山修三

学術講演会

4月26日(日) 14時～15時
「吹田くわいの生態と歴史」
吹田くわい保存会会長 北村英一氏
「吹田くわいの試食」(15時～16時)
千里金蘭大学教授 安田直子氏(先着60名)
5月10日(日) 14時～15時30分
「吉志部瓦窯跡と平安京の瓦」
京都文化博物館学芸員 植山 茂氏
5月24日(日) 14時～15時30分
「吹田ゆかりの文人画家」
大阪芸術大学教授 田中敏雄氏
5月30日(土) 14時～15時30分
「大塩の乱と吹田」
元大阪歴史博物館副館長 相蘇一弘氏
5月31日(日) 13時30分～16時30分
「神崎川の今・昔」
吹田郷土史研究会会長 佐々木 進氏
「神崎川の再生を目指して」
神崎川畔企業連絡会事務局長 橋本徹也氏
6月7日(日) 14時～15時30分
「古代国家と須恵器生産」
京都府立大学准教授 菱田哲郎氏
6月21日(日) 14時～15時30分
「真宗寺院の動向と北摂地域」
大澤研一氏(大阪歴史博物館学芸員)
7月12日(日) 14時～15時30分
「千里山一京阪神・戦前開発郊外住宅地を探访する」
中島祐三建築設計事務所代表 中島祐三氏

歴史講座

5月4日(月・祝) 13時30分～15時30分
「吉志部神社の発掘と現地見学会」
当館技師 西本安秀
5月23日(土) 14時～15時30分
「吹田砂堆をめぐる考古学―集落遺跡の展開―」
当館学芸員 高橋真希
6月20日(土) 14時～15時30分
「考古学からみた垂水・江坂」
当館学芸員 藤原 学
7月4日(土) 14時～15時30分
「山田の筍栽培と掘り具」当館学芸員 藤井裕之
7月11日(土) 14時～15時30分
「吹田の近世近代の瓦産業」当館学芸員 藤原 学

博物館トーク

5月9日(土) 14時～15時
「常光円満寺と吹田氏」当館学芸員 池田直子
6月6日(土) 14時～15時
「吹田の行基伝承」 当館学芸員 滝沢幸恵

市民フォーラム

6月14日(土) 13時30分～15時30分
「1町5村アーカイブ構想
―歴史遺産・生活文化遺産・自然環境の拠点をめざして―」

講演会・歴史講座・博物館トーク・市民フォーラムはいずれも申し込み不要(先着120名)、会場 当館講座室、聴講無料

郷土芸能大会

5月16日(土)
10時30分～11時30分
13時30分～14時30分
泉殿宮神楽獅子
山田権六おどり・権六傘踊り
山田太鼓神輿
(打ち込み太鼓)
江坂太鼓御輿(伊勢音頭)

吉志部神社と釈迦が池

5月17日(日) 14時～
郷土民話舞踊「釈迦が池」
(照の会)
吉志部神社どんじ祭記録上
映と神饌のふるまい
(吉志部神社どんじ保存会)
申し込み不要
会場 当館講座室、無料

地元野菜販売

4月26日(日)
5月31日(日)
10時～16時
(吹田市農業振興
研究協議会)

おでかけイベント

(吹田まち案内人)

① 4月26日(日)

旧西尾家と吹田村まち歩き

集合 13時 阪急吹田駅南改札口

解散 16時 JR吹田駅

② 5月13日(水)

旧中西家と七尾瓦窯跡、博物館

集合 9時30分 JR岸辺駅

解散 12時 博物館

③ 5月24日(日)

岸部村歩きと博物館

集合 9時30分 JR岸辺駅

解散 12時 博物館

④ 5月28日(木)

吹田村まち歩きとアサヒビール工場見学

集合 13時 JR吹田駅前サンクス広場

解散 16時頃 阪急吹田駅

⑤ 6月7日(日)

旧千里村Aコース(片山、原地区)

集合 9時30分 JR吹田駅北口バス停前

解散 13時 博物館 弁当持参

⑥ 6月20日(土)

旧千里村Bコース(千里山東、佐井寺地区)

集合 9時30分 阪急千里山駅

解散 13時 博物館 弁当持参

⑦ 6月28日(日)

旧山田村コース(山田東、山田西地区)

集合 9時 阪急山田駅

解散 13時 博物館 弁当持参

⑧ 7月5日(日)

旧豊津村コース(垂水、江坂地区)

集合 13時 阪急豊津駅

解散 16時 蔵人榎原家住宅

⑨ 7月11日(土)

旧新田村コース(春日地区)

集合 13時 阪急千里山駅西改札前

解散 16時 桃山台駅

(すいた環境学習協会まち組)

⑩ 5月9日(土)

トーク「吹田の変遷」と吹田村まち歩き

集合 10時 JR吹田駅2階中央改札口

解散 16時 JR吹田駅

⑪ 6月13日(土)

山田村のまち歩きとトーク「山田の歴史」

集合 10時 南千里駅

解散 16時 山田伊射奈岐神社-小野原街道
より阪急山田駅 昼食持参

①～⑪とも

定員 各回30名(多数抽選) 参加無料

申し込み ハガキまたはファックスに住所、名前、電話番号、参加人数(2人まで)を書いて当館へ。

申し込み締切 実施日の10日前までに必着

吉志部瓦窯跡・七尾瓦窯跡見学会

4月25日～5月30日の毎土曜日 15時～

博物館から吉志部瓦窯跡・七尾瓦窯跡などの
現地を見に行こう(岸部七尾自治会)参加無料

ゴールデンウィークイベント

4月29日(水・祝)

「いきいきワクワクほっこり遊ぼう」

10時～16時

描いて造って遊ぼう!アーティストと一緒に

(顔出し看板・ダンボール・布・草木石
造型コーナー)(現代美術を愉しもう塾)

9時30分～12時

邦楽演奏「玉手箱」

伝統楽器や日常品での演奏&踊り指導

12時30分～14時30分

ヨガ体操&護身術(吹田柔道連盟)

15時～16時

リコーダ&リュート演奏会

(アンサンブルミーシャ)

5月2日(土)・6日(水・休) 11時～15時(随時)

吹田民話ビッグかるた大会・紙芝居

(ポン菓子進呈)

なつかしいお菓子の店(カフェたんぽぽ)

5月3日(日・祝)～5日(火・祝)

展示室クイズ(賞品付き)

(博物館ボランティア有志)

5月3日(日・祝) 10時～15時

バンブーアート・竹細工教室

(すいた環境学習協会 すいたエコクラフトクラブ)

5月5日(火・祝) 10時30分～・14時～

郷土民話の読み語りと紙芝居(朗読工房)

*展示室クイズは観覧料が必要です

その他のイベントは参加無料・申し込み不要

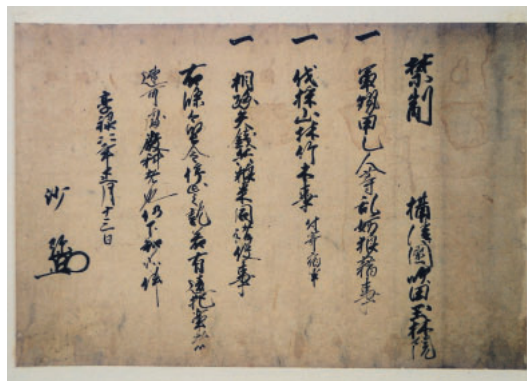
新指定等の文化財

吹田市教育委員会では平成21年2月23日に有形文化財として垂水南遺跡出土墨書土器、玉林寺文書、山田伊射奈岐神社社号標石、佐井寺伊射奈岐神社社号標石の4件を指定すると共に、地域無形民俗文化財として江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事及び地域有形民俗文化財として江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿を登録しました。今回の計6件の指定、登録により吹田市の指定文化財等は21件となり、保存や活用に努めてまいります。(増田真木)



垂水南遺跡出土墨書土器

平安時代の荘園に関連する資料です。



玉林寺文書

中世動乱期の歴史を知ることのできる史料です。



佐井寺伊射奈岐神社社号標石

平安時代に編纂された「延喜式神名帳」に記載された神社を顕彰するために江戸時代中頃に建てられたものです。



山田伊射奈岐神社社号標石



江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事

江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿

素盞鳴尊神社で行われる神幸祭とその祭りで担がれる太鼓御輿です。

●開館時間(4月1日より)
午前9時30分～午後5時15分
●休館日
月曜日、祝日の翌日
12月29日～1月3日
<http://www.suita.ed.jp/hak/>

吹田市立博物館だより 第37号
平成21年(2009年)3月31日発行
吹田市立博物館
〒564-0001
吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL.06(6338)5500
FAX.06(6338)9886

この冊子は、4,000部作成し1部あたりの単価は47円です。